



夫婦・カップルの親密性とジェンダーに関する研究

生活環境科学系・生活文化学領域

岡田 玖美子

専任講師

Okada Kumiko

博士(人間科学)(大阪大学)

■研究キーワード

夫婦・カップル／親密性／感情作業／ジェンダー／ケア／コミュニケーション／夫婦カウンセリング／恋愛／結婚／性教育

■主な所属学会

日本社会学会 / 日本家族社会学会 / 日本女性学会 / 国際ジェンダー学会 / 関西社会学会

■研究者総覧

<https://koto10.nara-wu.ac.jp/search/detail.html?systemId=af4edb5a5265dd08520e17560c007669&lang=ja&st=researcher>



研究者総覧

研究概要

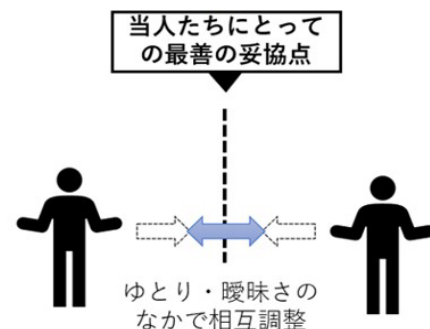
おもに現代日本の親密な関係におけるコミュニケーションやパートナーシップ形成、性と生殖に関する権利と健康(SRHR)について研究しています。夫婦やカップルの愛情や性、結婚をめぐる現状や葛藤について、社会調査や社会学理論、ジェンダーの視点を通じて明らかにすることをめざしています。

実証レベルでは、カップルや夫婦を対象としたインタビュー調査やWeb質問紙調査、夫婦・カップル関係の相談を行う専門家へのインタビュー調査、ドラマ作品やSNSなどのメディアを通じた文化・社会意識の分析などを行っています。

また、フェミニズム理論や「ケアの倫理」、家族社会学理論、現代社会論などの理論や学説をもとに、よりよい人間関係やジェンダー平等な社会の実現に向けた社会構想についての研究も行っています。



監修として開発に携わっている
カップル向け対話ツール



〈歩み寄り〉協議モデル

現代日本でみられるコミュニケーション
様式のモデル化(岡田 2024)

アピールポイント

1. 未婚化・非婚化・晩婚化、少子化、夫婦・恋人間のコンフリクト（すれ違い、話し合えなさ、セックスレス、DVなど）、ワーク・ライフ・バランスといった社会問題に関する分析

家族や恋愛・結婚は多くの人にとって、生活や人生を左右するような大きな関心事であると同時に、日本の社会の制度や持続可能性とも関わっています。社会学的な観点からこれらの課題に取り組み、データや理論をもとに現状を正確に把握し、問題のメカニズムを明らかにすることで、個人と社会の双方に貢献しうる知見を提出することをめざしています。

2. 親密な関係をめぐる問題の解決策や支援の模索・新たな実践ツールの開発

研究者の立場から個人と社会の双方に寄与すべく、夫婦カウンセリングなどの夫婦・カップル関係への支援サービスの研究や、パートナー間での対話を促進するツールの開発を行っています。日本では従来文化・歴史的に家族内での問題は不可視化・軽視されやすかったという背景があります。その状況を打開するような新たな社会制度や支援サービスの可能性についても追究しています。

3. 「あ・うんの呼吸」「空気のような関係」などの日本に特徴的とされるコミュニケーション様式・親密な関係性の解明

日本の親密な関係については、欧米と比較すると非言語的なコミュニケーションが特徴的であることが指摘されてきました。ただし、その実態については十分解明・周知されていません。複数の量的・質的調査データを用いて研究することで、日本の独特な関係性やコミュニケーションについての学術的理解を深めるとともに、その知見を国際的に発信することで、家族・親密性研究やジェンダー研究の発展に貢献します。